

押村 高教授 研究業績

著書

- ・『グローバル社会の哲学－現状維持を越える論理』、みすず書房、2025 年
- ・『国家のパラドクス－ナショナルなものの再考』、法政大学出版局、2013 年
- ・『国際政治の思想－生存・秩序・正義』、勁草書房、2010 年
- ・『国際正義の論理』、講談社現代新書、2008 年
- ・『モンテスキューの政治理論－自由の歴史的位相』、早稲田大学出版部、1996 年

編著

- ・『政治概念の歴史的展開』、晃洋書房、2015 年
- ・『越える－境界なき政治の予兆』、風行社、2010 年
- ・『帝国アメリカのイメージ－国際社会との広がるギャップ』、早稲田大学出版部、2004 年

共編著

- ・(山本吉宣・羽場久美子・押村高)『国際政治から考える東アジア共同体』、ミネルヴァ書房、2012 年
- ・(押村高・小久保康之)『西欧・EU 政治論』、ミネルヴァ書房、2012 年
- ・(押村高・中山俊宏)『世界政治を読み解く』、ミネルヴァ書房、2011 年
- ・(山脇直司・押村高)『アクセス公共学』、日本経済評論社、2010 年
- ・(谷喬夫・押村高)『藤原保信著作集 5－20 世紀の政治理論』、新評論、2006 年
- ・(添谷育志・押村高)『アクセス政治哲学』、日本経済評論社、2003 年

- ・(支倉寿子・押村高)『21世紀ヨーロッパ学—伝統的イメージを検証する』、ミネルヴァ書房、2002年
- ・(河野勝・天児慧・押村高)『アクセス国際関係論』、日本経済評論社、2000年

分担執筆

- ・「グローバル化時代の集団的自己決定」、杉田敦編『デモクラシーとセキュリティ』、法律文化社、2018年
- ・「国際社会における政治的責任」、齋藤純一編『人権の実現』、法律文化社、2010年
- ・「断片化するアカウンタビリティ—日本におけるグローバル化と政治的責任概念の変化」、真柄秀子編『デモクラシーとアカウンタビリティ』、風行社、2010年
- ・「啓蒙の利害アプローチとヨーロッパの平和建設—サンピエールの『永久平和論』」、千葉真編『平和の政治思想史』、おうふう、2009年
- ・「The Function and Dysfunction of Identity in an Institutionalizing Process: The Case of Northeast Asia」, M. Timmermann et als.(eds), *Institutionalizing Northeast Asia: Regional Steps towards Global Governance*, 2008
- ・「カント・モーメント—ヨーロッパの平和実践における人間意思と理念の役割」、山内進ほか編『衝突と和解のヨーロッパ—ユーロ・グローバリズムの挑戦—』、ミネルヴァ書房、2007年
- ・「ディスコースとしての日米同盟」、山本吉宣・武田興欣共編『アメリカ政治外交のアナトミー』、国際書院、2006年
- ・「In Defense of Asian Colors」, Mansfield Center for Pacific Affairs (ed.), *The Rule of Law: Perspectives from the Pacific Rim*, 2000
- ・「ネイション」、佐藤正志・添谷育志共編『政治概念のコンテクト』、早稲田大学出版部、1999年
- ・「機構改革と民主化に向けて」、村田良平編『EU—21世紀の政治課題』、勁

草書房、1999 年

- ・「アジア的価値の行方」、天児慧編『アジアの 21 世紀－歴史的展開の位相』、紀伊國屋書店、1998 年
- ・「歴史・文明と外交」、渡辺昭夫編『現代日本の国際政策』、有斐閣、1997 年
- ・「モンテスキュー」、藤原保信・飯島昇藏共編『西洋政治思想史 I』、新評論、1995 年
- ・「ナショナリズム」、白鳥令・佐藤正志共編『現代の政治思想』、東海大学出版部、1993 年
- ・「国家体制史」「フランス政治の変容」、奥島孝康・中村紘一共編『フランスの政治－中央集権国家の伝統と変容』、早稲田大学出版部、1993 年
- ・「モンテスキュー」、芹沢功編『現代に語りかける政治思想史』、昭和堂、1987 年
- ・「モンテスキューと自然法思想－近代自然法論との関連において」、小笠原弘親編『啓蒙政治思想の展開』、成文堂、1984 年

学術論文・評論

- ・「伝統の発見、社会の保全、統治の持続－モンテスキューにおける保守主義的モーメント」、『政治思想研究』第 18 号、2018 年
- ・「歪められた日本政治の論争軸－一次の選挙で投票と連動させるには」、朝日新聞社『月刊 Journalism』、2017 年 12 月号
- ・「リアリストはなぜ現実から遠ざかるのか」、『政治哲学』第 16 号、2014 年
- ・「グローバル化と正義－主体、領域、実効性における変化」、日本法哲学会編『法哲学年報』2012 年号
- ・「ディスコースとしての主権（下）－主権批判の系譜と射程」、『青山国際政経論集』、86 号、2012 年
- ・‘Alliance, Bases and Okinawa: Why does Japan Stop thinking?’ , Ministry of Foreign Affairs of Japan, *Discuss Japan*, October 2011

- ・「グローバル・イシューズに対する倫理的アプローチ行動すべき主体とその責任」、日本平和学会編『平和研究』第36号、2011年
- ・「ディスコースとしての主権（上）ー知がもたらす秩序の役割と限界」、『青山国際政経論集』85号、2011年
- ・「トランスナショナル・デモクラシーはデモクラティックかー脱領土的政治における忠誠の行方」、日本政治学会編『年報政治学』2011年1号
- ・「Framing a Regime Choice: The Changing Role of Party Discourse in Japan', *Aoyama Journal of International Politics*, No.80, 2010
- ・「グローバル化と共同体論の位相転換ーコスモポリタン＝コミュニタリアン論争の行方」、『政治思想研究』第9号、2009年
- ・「Assessing Political Accountability in a Globalized Japan: A Politico-Philosophical Framework', *Aoyama Journal of International Politics*, No.75, 2008
- ・「介入はいかなる正義に基づきうるかー誤用と濫用を排して」、『思想』No.993、2007年
- ・「民主主義と武力行使ー冷戦終焉後の展開とイラク戦争による転回」、日本政治学会編『年報政治学』2007年1号
- ・「戦争のもうひとつの語り方ー国際関係における反実仮想の効用」、『思想』No.984、2006年
- ・「ボルドーにおけるトゥルニーの都市計画ー18世紀フランス地方港湾都市の一断面」、『東西都市の歴史的諸相』（青山学院大学総合研究所）、2006年
- ・「最強者のおののきー帝国論争から読むアメリカの背理」、『思想』No.975、2005年
- ・「国家の安全保障と人間の安全保障」、『国際問題』No.530、2004年
- ・「In Defense of Asian Colors', *Asia Perspectives*, Vol.2, No.2, 1999
- ・「国家理性の系譜学」、『青山国際政経論集』44号、1998年
- ・「イデオロギーからアイデンティティへーナショナリズムのゆくえ」、『月刊フォーラム』、1995年11月号
- ・「モンテスキューの国際関係思想」（下）、『青山国際政経論集』35号、1995年

- ・「モンテスキューの国際関係思想」(上)、『青山国際政経論集』31号、1994年
- ・「法の本質、あるいは立法への懐疑」、『社会科学討究』40巻1号、1994年
- ・「フランス政治思想史における党派の問題」『青山国際政経論集』29号、1994年
- ・「絶対悪としての専制—モンテスキュー東洋的政体の論理と背理」、『社会科学討究』38巻2号、1992年
- ・「平等・効率・多様性—フランス社会党政府の大学改革にみる政策と教育」、早稲田大学『社研研究シリーズ』、1991年
- ・「フランス政治学発達小史—制度論優位の構造」、『みすず』353号、1990年
- ・「モンテスキューのイギリス Constitution 論—いわゆる偏見の諸前提」、『社会科学討究』32巻1号、1986年
- ・「モンテスキューとフランス封建社会—政治的自由論の形成過程(二)」、『学術研究』34号、1985
- ・「モンテスキューと共和政ローマ—政治的自由論の形成過程(一)」、『学術研究』33号、1984年
- ・「モンテスキューの政体論に関する一考察」、『早稲田政治公法研究』12号、1983年

翻訳・コラム・解題・その他

- ・(コラム)「ロールズは国際正義の概念化に寄与したか」、『風のたより』、風行社、2018年
- ・(対談：+藤崎一郎)「世界はどこへ向かうのか—国家への回帰とデモクラシーの課題」、『Aspen Fellows』31号、日本アスペン研究所、2017年
- ・(共訳) D・ジョンストン『正義はどう論じられてきたか—相互性の歴史的展開』みすず書房、2015年
- ・(コラム)「世界戦争はなぜ二度起きたのか—戦間期の教訓に学ぶ」、日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』、法律文化社、2014年
- ・(解題) モンテスキュー『法の本質』、杉田敦・川崎修編『西洋政治思想資料』

集』、法政大学出版局、2014 年

- ・(コラム)「欧州統合と主権論争—実在論から機能主義へ」、『EUを知るための63章』、明石書店、2013 年
- ・(コラム)「誰が西洋の本流なのか」、『風のたより』、風行社、2011 年
- ・(座談会記録：＋渡辺靖、伊勢崎賢治、松島泰勝)「日米安保をめぐる政治と外交の不在」、『環・特集号：日米安保を問う』、2010 年
- ・(書評論文)「政治学の構想力—佐々木毅『政治学は何を考えてきたか』」、『政治思想研究』8号、2009 年
- ・(事典)「主権」、イギリス哲学会編『イギリス哲学・思想事典』、研究社、2007 年
- ・(コラム)「政治外交課題としての9条精神」、千葉眞ほか編『平和憲法と公共哲学』、晃洋書房、2007 年
- ・(編訳) Y・タミール『リベラルなナショナリズムとは』、夏目書房、2007 年
- ・(共訳) I・クラークほか編『国際関係思想史』、新評論、2003 年
- ・(調査報告)「PKO 協力のフランス的特性」(外務省委託研究)、『PKO 派遣の戦略的意義に関する対国内的説明』((財)平和・安全保障研究所)、2003 年
- ・(共訳) D・パウチャー／P・ケリー編『社会正義論の系譜』、ナカニシ出版、2002 年
- ・(解題) ヤエル・タミール『リベラル・ナショナリズム』、デイヴィッド・ミラー『ナショナリティについて』、大澤真幸編『ナショナリズムの名著50』、平凡社、2002 年
- ・(書評) Akira Koba, *The Genesis of Politics, Japanese Journal of Political Science*, 2000
- ・(共訳) J-M・クワコウ『政治的正当性とは何か』、藤原書店、2000 年
- ・(共訳) D・パウチャー／P・ケリー編『社会契約論の系譜』、ナカニシ出版、1997 年
- ・(編訳) M・J・スミス『現代主義の国際政治思想』、垣内出版、1997 年
- ・(共訳) Z・A・ペルチンスキー／J. グレイ編『自由論の系譜』、行人社、1987 年